

第一章

江戸時代

前期・中期の

京焼

創始と展開

8

■ 野々村仁清

高麗写茶碗

10

銑絵土筆文茶碗

14

銑絵水仙文茶碗

京都・天寧寺蔵

18

色絵波三日月文茶碗

東京国立博物館蔵

22

流釉茶碗 銘片男波

26

色絵鱗文茶碗

京都・北村美術館蔵

30

色絵薄文茶碗 銘武蔵野

大阪・湯木美術館蔵

34

色絵麻葉文茶碗

38

色絵蓬菖蒲文茶碗

42

色絵梅鉢文茶碗

46

色絵梅鉢文平茶碗

50

色絵七宝繫文茶碗

東京・サントリー美術館蔵

54

色絵金銀菱文重茶碗

静岡・MOA美術館蔵

58

鉄釉天目

64

■ 栗田口焼

銑絵染付鳶文茶碗

68

信楽写茶碗

兵庫・滴翠美術館蔵

72

■ 修学院焼

灰釉茶碗

兵庫・滴翠美術館蔵

76

■ 野神焼

流釉茶碗

兵庫・滴翠美術館蔵

80

■ 尾形乾山

銑絵洞庭秋月文茶碗

東京・根津美術館蔵

84

銑絵竹文茶碗

88

銑絵染付梅文茶碗

92

銑絵染付牡丹文茶碗

96

銑絵染付燕子花文茶碗

石川県立美術館蔵

100

銑絵染付立葵文茶碗

滋賀・MIHOMUSEUM蔵

104

銑絵染付雪中山水文茶碗

108

色絵菊唐草文茶碗

112

色絵槍梅文茶碗

滋賀・MIHOMUSEUM蔵

116

色絵菊文茶碗

120

第一章

江戸時代

後期の

京焼

多士済々の時代

124

■ 初代清水六兵衛

御本写立鶴茶碗

兵庫・滴翠美術館蔵

126

銑絵富士文茶碗

東京・静嘉堂文庫美術館蔵

130

伊賀写筒茶碗 銘管窺

大阪・逸翁美術館蔵

134

■ 初代高橋道八

黒楽月文茶碗

138

黒楽鶴亀文茶碗

142

銑絵染付唐子文茶碗

146

■ 青木木米

刷毛目平茶碗

兵庫・滴翠美術館蔵

150

唐津写茶碗

154

祥瑞写四方茶碗

158

色絵七宝繫菱文茶碗

兵庫・滴翠美術館蔵

162

色絵菊花文茶碗

兵庫・滴翠美術館蔵

166

■ 仁阿弥道八

空中写白雲山字茶碗

東京国立博物館蔵

170

銑絵竹鶯文茶碗

兵庫・滴翠美術館蔵

174

銑絵暦文茶碗

京都市立芸術大学芸術資料館蔵

178

色絵秋草文茶碗	大阪・湯木美術館蔵	182
色絵筋文入子茶碗	大阪・逸翁美術館蔵	186
■一方堂焼		
錆絵染付薄文茶碗	京都・仁和寺蔵	192
■尾形周平		
三島写象嵌花鳥文刷毛目茶碗	兵庫・滴翠美術館蔵	196
色絵秋草文茶碗	京都・野村美術館蔵	200
■永樂了全		
安南写染付花唐草文茶碗	兵庫・滴翠美術館蔵	204
■永樂保全		
安南写染付蜻蛉文茶碗	大阪・逸翁美術館蔵	208
金欄手葵紋花唐草文茶碗		212
染付雲堂手写茶碗	大阪・湯木美術館蔵	216
色絵日出鶴文茶碗	京都・北村美術館蔵	220
色絵海老文茶碗		224
色絵秋草文茶碗	兵庫・滴翠美術館蔵	228

色絵飛雁文筒茶碗	兵庫・滴翠美術館蔵	232
■永樂和全		
色絵七宝文蟹絵平茶碗		236
色絵撫子文茶碗	兵庫・滴翠美術館蔵	240
■眞葛長造		
色絵藪柑子文茶碗	大阪・湯木美術館蔵	244
色絵鳶文茶碗		248
色絵紅葉文茶碗		252

第三章

国内諸窯の  
勃興

流行と個性

■朝日焼（京都）		
灰釉茶碗 銘玉水		258

鉄釉色絵海老文茶碗		306
色絵秋草文茶碗	兵庫・滴翠美術館蔵	310
■偕楽園焼（和歌山）		
赤楽平茶碗 銘唐鏡	兵庫・滴翠美術館蔵	314
■清寧軒焼（和歌山）		
黒楽茶碗 銘深緑	兵庫・滴翠美術館蔵	318
■虫明焼（岡山）		
祥瑞写染付山水図松竹梅文茶碗	京都国立博物館蔵	322
錆絵氷裂文茶碗 銘君が世		326
色絵楓図茶碗	兵庫・滴翠美術館蔵	330
■楽山焼（島根）		
伊羅保写茶碗	兵庫・滴翠美術館蔵	334
刷毛目茶碗	兵庫・滴翠美術館蔵	338
色絵秋草文茶碗	島根・田部美術館蔵	342
色絵四君子図茶碗	東京国立博物館蔵	346
■布志名焼（島根）		
色絵海老文茶碗	島根県立美術館蔵	350

色絵菊花図茶碗	354	■瀬戸焼（愛知）	398
■尾戸焼（高知）	358	染付松竹梅文茶碗	402
京都・野村美術館蔵		愛知県陶磁美術館蔵	
三島写鏤絵暦文茶碗	362	■須恵焼（福岡）	406
兵庫・滴翠美術館蔵		祥瑞写染付松竹梅文茶碗	410
福岡・田中丸コレクション蔵		兵庫・滴翠美術館蔵	
■柳原焼（福岡）	370	■楽々園焼（東京）	414
京都国立博物館蔵		黒織部写茶碗	418
印花雲鶴文茶碗	374	■志賀焼（長崎）	422
福岡・田中丸コレクション蔵		総論 江戸時代の和物茶碗を知るために	
染付芦雁図茶碗	378	■八代焼（熊本）	450
大阪・湯木美術館蔵		本書で採り上げた陶工・生産地	
■八代焼（熊本）	382	本書関連窯業地図	
灰釉筒茶碗 銘ねざめ	386	収録した茶碗を所蔵する美術館ガイド	
東京・出光美術館蔵		主要な参考文献	
象嵌牡丹文茶碗	390	■薩摩焼（鹿児島）	476
東京・永青文庫蔵		色絵秋草文茶碗	467
高知県立高知城歴史博物館蔵		色絵七宝亀甲繫文茶碗	466
大阪・逸翁美術館蔵			

## 凡例

- 本書で採り上げる茶碗は、江戸時代に制作された和物茶碗のうち、京焼（野々村仁清、粟田口焼、修学院焼、野神焼、尾形乾山、初代清水六兵衛、初代高橋道八、青木木米、仁阿弥道八、一方堂焼、尾形周平、永樂了全・保全・和全、眞葛長造）をはじめ、日本各地の諸窯（朝日焼、膳所焼、赤膚焼、古曾部焼、高原焼、吉向焼、珉平焼、偕楽園焼、清寧軒焼、虫明焼、楽山焼、布志名焼、尾戸焼、須恵焼、柳原焼、志賀焼、八代焼、薩摩焼、瀬戸焼、楽々園焼、魁翠園焼）のやきものである。
- 茶碗の選定は、監修者（赤沼多佳・竹内順一・谷晃）による指導のもと、責任編集者（梶山博史）がおこない、所蔵先より許可された作品を掲載する。
- 茶碗の名称は、原則として所蔵先と協議のうえ、責任編集者が決定した。
- 作品情報は、指定、所蔵先名（個人名は省略）、陶工名・生産地名、制作年代、計測値の順で、確定できる内容に限り掲載した。
- 計測値（高さ・口径・胴径・高台径・重量）は、原則として執筆担当者が計測したものを表記した。
- 英文は、作品名、陶工名・生産地名、制作年代、所蔵先名、指定の順で掲載した。
- 茶碗の正面は、原則として所蔵先と協議のうえ、執筆担当者が決定した。側面に関しては、正面に向かって右側を右側面、左側を左側面と表記した。
- 掲載図版は、できる限り新規に撮影したが、所蔵先などから提供を受けたものもある。下記の撮影者と写真提供先のうち、掲載頁を明記していない図版はすべて宮野正喜の撮影になる。
- 茶碗の作品解説等の執筆は、梶山博史、重根弘和、山田正樹が担当し、各文末に（ ） に入れて担当者名を記した。
- 「伝来」の情報は、直接移動したことが明白であるものは「―」、それ以外は「…」と表記した。その他の情報は、わかる限り忠実に掲載した。
- 「箱と箱書」には、共箱と思われるもの、古筆鑑定家や陶工各家歴代による極め書きが記されたもの、伝承のみのもの、美術商によるもの、筆者の素性が不明なものについて、原則として筆者を表記していない。
- 銘や箱書、史料に用いた表記のうち、／は改行、□は判読不明の文字を示す。
- 人物の生没年は、西暦における生没年を記した。

### 撮影

宮野 正喜

岡田 愛（p.18～21・p.68～71・p.286～289・p.322～325・p.370～373）  
梶山 博史（p.424図1右・p.444図16）

#### 写真提供

有田町歴史民俗資料館（p.424図2）／出光美術館（p.382～385）／京都国立博物館（p.18～21・p.68～71・p.286～289・p.322～325・p.370～373・p.428図3・p.434図11）／香雪美術館（p.433図10）／サントリー美術館（p.54～57）／瀬戸蔵ミュージアム（p.424図1左）／滴翠美術館（p.428図4）／名古屋市博物館（p.406～408）／根津美術館（p.84～86）／野村美術館（p.436図12・p.437図13）／姫路市教育委員会（p.438図14）／早稲田大学図書館（p.419史料3）／ColBase [https://colbase.nich.go.jp/]（p.429図6）／DNPアートコミュニケーションズ Image: TNM Image Archives（p.22～25・p.170～173・p.346～349）